

# 公益財団法人 精神・神経科学振興財団定款

## 第1章 総 則

(名称)

第1条 この法人は、公益財団法人精神・神経科学振興財団と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都東村山市に置く。

2 この法人は、理事会の決議によって従たる事務所を必要な地に置くことができる。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、精神疾患、神経疾患、筋疾患、精神・神経領域の発達障害及び精神保健に関する調査研究（以下「精神・神経科学」という。）を助長奨励するとともに、これらの疾患の診断及び治療技術の開発・普及に関する各種事業を推進することによって精神・神経科学の振興を図り、もって国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 精神・神経疾患等に関する基礎的、臨床的調査研究及び精神保健に関する調査研究の実施及び助成
  - (2) 日本人研究者の海外派遣及び海外研究者の招聘等国際学術交流の実施及び助成
  - (3) 研究業績の発表及び研究集会の開催及び助成
  - (4) 若手研究者、技術者、医療従事者等の育成並びに研修の実施及び助成
  - (5) 予防及び知識の普及等の広報活動並びに専門的情報の提供
  - (6) 国等の天災・地変及びその他の災害等にかかる援助等
  - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項各号の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

## 第3章 資産及び会計

(基本財産)

第5条 この法人の財産は、基本財産とその他の財産の2種類とする。

2 基本財産は、この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産として理事会で定めたものとする。

3 その他の財産は、基本財産以外の財産とする。

4 公益認定を受けた日以後に寄付を受けた財産については、その半額以上第4条の事業に使用するものとし、その取扱いについては、理事会及び評議員会の決議により別に定める寄付金等取扱規定による。

(財産の維持及び処分)

第6条 この法人の基本財産及びその他の財産は適切な維持及び管理に努めるものとする。

- 2 前項に規定する財産の一部をやむを得ず処分する場合には、理事会及び評議員会の決議を得なければならない。

(財産の管理・運用)

第7条 前条に規定する基本財産及びその他の財産の管理・運用については、理事長が行うものとし、その方法は理事会の決議により、別に定める資金運用規定によるものとする。

(事業年度)

第8条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(事業計画及び収支予算)

第9条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けるとともに、直近の評議員会へ報告しなければならない。これを変更する場合も同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
- 3 前項の規定に関わらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は理事会の決議を得て、予算成立の日まで前年度の予算に準じて収入支出をすることができる。
- 4 前項の収入支出については、新たに成立した予算の収入支出とみなす。
- 5 第1項の事業計画書及び収支予算書等については、毎事業年度の開始前までに行政庁に提出しなければならない。

(事業報告及び決算)

第10条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長は次の書類を作成し、監事の監査を受けたうえで、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類

については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

- 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
  - (1) 監査報告
  - (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
  - (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
  - (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類
- 4 前項の計算書類等については、毎事業年度終了後3カ月以内に行政庁に提出しなければならない。
- 5 この法人は、第1項の評議員会の終結後直ちに貸借対照表を公告するものとする。

(借入金及び重要な財産の処分又は譲受け)

- 第11条 この法人が、資金の借入れをしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する借入金を除き、理事会及び評議員会において議決に加わることができる理事及び評議員の過半数が出席し、その3分の2以上の議決を得なければならない。
- 2 この法人が重要な財産の処分又は譲受けを行う場合も前項と同様とする。

(公益目的取得財産残額の算定)

- 第12条 理事長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、第10条第3項第4号の書類に記載するものとする。

(会計原則等)

- 第13条 この法人の会計は、実施事業に応じて一般に公正・妥当と認められる会計の慣行に従うものとする。
- 2 特定費用準備資金及び特定の資産の取得又は改良に充てるために保有する資金の取扱いについては、理事会の決議により別に定める。

## 第4章 評議員

(評議員)

- 第14条 この法人に、評議員3名以上12名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第15条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。

2 評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。

(1) 各評議員について、次のイからへに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること

イ 当該評議員及びその配偶者は三親等内の親族であって、これらの者と生計を一にするもの

ロ 当該評議員と婚姻の届け出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者

ハ 当該評議員の使用人

ニ ロ又はハに掲げる者以外の者であって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持しているもの

ホ ハ又はニに掲げる者の配偶者

へ ロからニまでに掲げる者の三親等内の親族であって、これらの者と生計を一にするもの

(2) 他の同一の団体（公益法人を除く。）の次のイからニに該当する評議員の総数の3分の1を超えないものであること

イ 理事

ロ 使用人

ハ 当該他の同一の団体の理事以外の役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人）又は業務を執行する社員である者

ニ 次に掲げる団体においてその職員（国会議員及び地方公共団体の議会の議員を除く。）である者

① 国の機関

② 地方公共団体

③ 独立行政法人通則法第2条第1項に規定する独立行政法人

④ 国立大学法人法第2条第1項に規定する国立大学法人又は同条第3項に規定する大学共同利用機関法人

⑤ 地方独立行政法人法第2条第1項に規定する地方独立行政法人

⑥ 特殊法人（特別の法律により特別の設立行為をもって設立された法人であつて、総務省設置法第4条第15号の規定の適用を受けるものをいう。）又は認可法人（特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の認可を要する法人をいう。）

(3) 評議員のうちには、理事のいずれか1人と親族その他特殊の関係がある者の数又は評議員のうちいずれか1人及びその親族その他特殊の関係があ

る者の合計数が評議員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。また、評議員には、監事及びその親族他特殊の関係がある者が含まれてはならない

- (4) 評議員は、この法人の理事又は監事若しくは使用人を兼ねることができない
- 3 評議員に異動があったときは、遅滞なく、その旨を行政庁に届出なければならない

(任期)

- 第16条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。また、再任を妨げない。
- 2 任期満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
  - 3 評議員は、第14条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬等)

- 第17条 評議員に対して、報酬等を支給することができる。その額は、各年度の総額が100万円を超えないものとする。
- 2 評議員には、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。
  - 3 前1、2項に関し必要な事項は、評議員会の決議により別に定める役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程による。

## 第5章 評議員会

(構成)

第18条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権限)

第19条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任及び解任
- (2) 役員・監事及び評議員の報酬並びに費用の額の規程
- (3) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)並びにこれらの附属明細書の承認
- (4) 定款の変更
- (5) 合併、解散及び残余財産の処分
- (6) 借入金並びに重要な財産の処分及び譲受け
- (7) 事業の譲渡

- (8) 解散後清算が終了するまでの事業の継続
- (9) 合併契約の承認
- (10) 前各号に定めるほか、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に規定する事項及びこの定款に定める事項  
(開催)

第20条 評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後3カ月以内に1回開催するほか、臨時評議員会は必要に応じて随時、開催する。

(招集)

第21条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。
- 3 理事長は評議員会の開催日の5日前までに、評議員に対し、会議の日時、場所、目的である事項を記載した書面をもって招集の通知をしなければならない。ただし、評議員全員の同意があるときは、招集の手続きを経ることなく、評議員会を開催することができる。

(議長)

第22条 評議員会の議長は、評議員の互選により選出する。

(定足数)

第23条 評議員会は、評議員の過半数の出席がなければ開催することができない。

(決議)

第24条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。
  - (1) 監事の解任
  - (2) 定款の変更
  - (3) 基本財産の処分又は除外の承認
  - (4) 事業の譲渡
  - (5) 解散後清算が終了するまでの事業の継続
  - (6) その他法令で定められている事項
- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第28条

第1項に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(決議の省略)

第25条 理事が評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案について議決に加わることのできる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなす。

(報告の省略)

第26条 理事が評議員の全員に対し、評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告する事を要しないことについては、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

(議事録)

第27条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議事録には、議長及びその会議に出席した評議員のうちから選任された、議事録署名人2人以上が、記名、押印する。

## 第6章 役員

(役員を設置)

第28条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 3名以上12名以内

(2) 監事 2名以内

2 理事のうち、1名を理事長、2名以内を常務理事とする。

3 前項の理事長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とし、常務理事をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第29条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 監事は、この法人の理事又は使用人を兼ねることができない。

4 理事のうち、理事のいずれか1名とその配偶者又は3親等内の親族その他法令で定める特別の関係にある者の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

5 他の同一の団体の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接

な関係にある者として法令で定める者である理事の合計数は理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

- 6 理事又は監事に異動があったときは、遅滞なく、その旨を行政庁に届出なければならない。

#### (理事の職務及び権限)

第30条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款の定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款の定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。常務理事については、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長及び常務理事は、毎事業年度の4カ月を超える間隔で2回以上自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

#### (監事の職務及び権限)

第31条 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告をする
- (2) 監事は、いつでも、理事及び使用人に対し事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる
- (3) 理事が不正の行為をし、若しくはその行為をする恐れがあると認めるとき、又は法令若しくは定款に違反する事実があるときは、これを理事会に報告する
- (4) 前号の報告をするため必要があるときは、理事長に理事会の招集を請求することができる。ただし、その請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会の日とする招集通知が発せられない場合は、直接招集する

#### (役員任期)

第32条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
- 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 4 理事又は監事は、第28条に定める定数に欠けたときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。



(役員解任)

第33条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。ただし、監事を解任する場合は、特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上の議決に基づいて行われなければならない。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき

(報酬等)

第34条 理事及び監事に対して、評議員会の決議により別に定める役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程による報酬等を支給することができる。

(取引の制限)

第35条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合は、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を得なければならない。

- (1) 自己又は第三者のためにする、この法人の事業の部類に属する取引
  - (2) 自己又は第三者のためにする、この法人との取引
  - (3) この法人がその理事の債務を保証すること。その他理事以外の者との間における、この法人とその理事との利益が相反する取引
- 2 前項の取引をした理事は、その取引の重要な事実を遅滞なく、理事会に報告しなければならない。
- 3 前2項の取扱いについては、別に定める理事会運営規則によるものとする。

(責任の免除又は限定)

第36条 この法人は、役員一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第198条において準用される第111条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。

- 2 この法人は、外部役員との間で、前項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には賠償責任を限定する契約を、理事会の決議によって、締結することができる。ただし、その契約に基づく賠償責任の限度額は、金10万円以上で予め定めた額と法令の定める最低責任限度額とのいずれか高い額とする。

## 第7章 理事会

(構成)

第37条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第38条 理事会は、この定款に別に定めるもののほか、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び常務理事の選定及び解職

2 理事会は、次に掲げる事項その他の重要な業務執行の決定を理事に委任することはできない。

- (1) 重要な財産の処分及び譲受
- (2) 多額な借財
- (3) 重要な使用人の選任及び解任
- (4) 従たる事務所、その他重要な組織の設置、変更及び廃止
- (5) 内部管理体制（理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するために必要な法令で定める体制をいう。）の整備、又はこの法人の業務の適正を確保するための体制の整備

(理事会の開催)

第39条 理事会は、定時理事会として毎事業年度終了後3カ月以内に1回開催するほか、臨時理事会は必要に応じて随時、開催する。

(招集)

第40条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、常務理事が理事会を招集する。

3 理事会を招集するときは、理事長は、開催日の1週間前までに、各理事及び監事に対し、理事会の目的である事項並びに日時及び場所、その他必要な事項を記載した文書により通知しなければならない。

4 前項の規定にかかわらず、理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続きを経ることなく開催することができる。

(議長)

第41条 理事会の議長は、理事長とする。ただし、理事長に事故あるときは、予め理事会において定めた常務理事2名のうち、いずれか1名の理事がこれにあたる。

(定足数)

第42条 理事会は、理事の過半数の出席がなければ開催することができない。

(決議)

第43条 理事会の決議は、この定款に別段の定めのあるもののほか、決議につ

いて特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する同法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べたときは、この限りではない。

(議事録)

- 第44条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第8章 顧問

(顧問)

- 第45条 この法人に顧問8名以内を置くことができる。
- 2 顧問は、理事会の推薦により任期を定め委嘱する。
- 3 顧問は、この法人の重要事項に関し、理事長の諮問に応ずる。

(顧問の職務)

- 第46条 顧問は、理事長の諮問に応え、理事長に対し、意見を述べることができる。

## 第9章 委員会

(委員会)

- 第47条 この法人の事業を推進するため、理事会はその決議により、次の委員会を設置することができる。
  - (1) 研究助成課題を選考するための委員会
  - (2) 理事会が必要と認めた委員会

## 第10章 賛助会員

(会員)

- 第48条 この法人の目的に賛同し、その事業に協力しようとする個人又は団体を、賛助会員とすることができる。
- 2 会員に関する必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 第11章 定款の変更、合併及び解散等

(定款の変更)

- 第49条 この定款は、評議員会において議決に加わることができる評議員の3分の2以上の議決を経て変更することができる。

- 2 前項の規定は、この定款の第3条及び第4条及び第15条についても適用する。
- 3 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第11条第1項各号に掲げる事項に係る定款の変更（軽微なものを除く）をしようとするときは、その事項の変更については、行政庁の認定を受けなければならない。

（合併等）

- 第50条 この法人は、評議員会において、議決に加わることのできる評議員の3分の2以上の議決により、他の一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の法人との合併、事業の全部又は一部の譲渡及び公益目的事業の全部の廃止をすることができる。
- 2 前項の行為をしようとするときは、予めその旨を行政庁に届け出なければならない。

（解散）

- 第51条 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第202条に規定する事由及びその他法令で定めた事由により解散する。

（公益認定取消し等に伴う贈与）

- 第52条 この法人が、公益認定の取消し処分を受けた場合、又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1カ月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

（残余財産の帰属）

- 第53条 この法人が解散等により清算をするときにおいて有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第12章 公告の方法

（公告の方法）

- 第54条 この法人の公告は、電子公告により行う。
- 2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報により行う。

### 第13章 事務局その他

(事務局)

第55条 この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

- 2 事務局に、事務局長及び所要の職員を置く。
- 3 事務局長及び職員は、理事長が任免する。
- 4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議を経て、理事長が別に定める。

(備付け書類及び帳簿)

第56条 事務所には、常に次に掲げる帳簿及び書類を5年間備えておかなければならない。

- (1) 定款
  - (2) 理事、監事及び評議員の名簿
  - (3) 認定、許可、認可等及び登記に関する書類
  - (4) 理事会及び評議員会の議事に関する書類
  - (5) 財産目録
  - (6) 役員等の報酬規程
  - (7) 事業計画書及び収支予算書等
  - (8) 事業報告書、貸借対照表、損益計算書及び附属明細書
  - (9) 監査報告書
  - (10) その他法令で定める帳簿及び書類
- 2 前項各号の帳簿及び書類等の閲覧については、法令の定めによるほか、閲覧等の情報公開をする。

(補則)

第57条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関し必要な事項は、理事会の決議を経て、理事長が別に定める。

### 附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第8条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業

年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

3 この法人の最初の理事は、次に掲げる者とする。

浅井昌弘 伊豫雅臣 大川匡子 大久保善朗 栗原照幸  
佐藤猛 高橋清久 埜中征哉 和田圭司

4 この法人の最初の代表理事は高橋清久、業務執行理事は佐藤猛、埜中征哉とする。

5 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

大澤真木子 行天良雄 小島卓也 佐藤光源 清水輝夫  
町野朔 松下正明 御子柴克彦

6 この法人の最初の監事は、次に掲げる者とする。

白倉克之 小澁高清

附 則 この定款の一部改正は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この定款の一部改正は、平成 25 年 10 月 1 日から施行する。

附 則 この定款の一部改正は、平成 26 年 6 月 20 日から施行する。

附 則 この定款の一部改正は、平成 28 年 6 月 10 日から施行する。

(平成 28 年 6 月 10 日評議員会議決)